

和

やわらぐ。なごむ。おだやか。ほどよいの意。
皆さまにとりまして、またお寺にとりましてもおだやかな日々
でありますように。

和



あけまして

おめでとうございます

誓願寺一同

2026



しんらん同人

No.590

1・2
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

お同行が日ごろ有難いご法話を
お聞かせいただいているお礼に、
また新しい年も、変わらずご法話
を頂きたいと年始のご挨拶で本願
寺にお参りに来られました。

その時に蓮如上人がおっしゃっ
たお言葉が残されています。

年末のお言葉が「信心をとりて
礼にせよ」年始のお言葉が「念仏
申さるべし」です。

しかしこのお言葉は、年末年始
の時だけの特別なお言葉ではあり
ません。

阿弥陀如来は、年末年始の時も
平凡な日も変わらず私達を見守
り。必ず救う、どんなことがあつ
ても心配いらない安心して暮らし
なさいと、仰って下さっていらっ
しやることを示されたのです。

合掌

元旦会と1月11日の法座の段取りを変更いたします

★1月1日(木)元旦会

13時よりお参り。お雑煮は用意いたしません。

★1月11日(日)定例法座

10時よりお参り。その後14時まで新年懇親会を行います。
参加費は無料です。お誘いあわせの上ご参加ください。

※準備の都合上新年懇親会にご参加予定の方は参加予定人数を
1月6日(火)までにお電話(03-3950-7828)でお知らせ下さい。

仏の真実が我が心に

誓願寺初代住職 故 岡本泰雄

今日は正信偈の「本願名号正定業、至心信楽願為因」の御文のところをお話し致します。

この文は他力信仰の根本です。苦悩の衆生を救いたい、もし救うことが出来なければ、仏とはならぬと誓われた。その本願が成就したところに阿弥陀仏の正覚があり、南無阿弥陀仏の名号が出来上がったのです。さればこの名号こそ、我々が往生するに間違いなく正しく定まれる業（はたらしき）なのです。

この名号のいわれが聞かされた当体を信心というのであって、この信心一つで浄土に生まれる、すなわち往生の因はこの信心なのです。

されば信心とは、わが心に起こすものではなく、仏の真実、仏のお慈悲がきこえたまんまが、信心なのです。これは仏の心が至り届いて下さったことなのです。

そこで第十八願について話したことでした。法話が終わって質疑の時間に「絶対他力の信に入った人は、善悪の行為をどう考えるのですか」とのご質問があった。「悪を廃し善を修めて仏になろうとするのではなく、広大のご恩に生かされていることを知らされるのであるから、することなすことすべて報謝の行であるから、自らのあさましさを懺悔し反省し、少しでも広大の仏恩に報いる行いをしなくては相すまぬ、積極的に骨惜しみのない活動がなされるのである。そこで世間道としての廃悪修善の道が歩ましめられる。」と答えたことであった。

法座の解散の時にお同行の一人が「先生、もう逃げられません、逃げようとしてももう逃げられません、お慈悲の中にしっかり捕らえられてしまいました」と、満面に喜びをたたえられながら言われた。ただただお念仏申すばかりであり、今日は本当にうれしい一日でした。

合掌

副住職

古賀明德

喜べる環境



新年明けましておめでとうございます。今年も誓願寺共々どうぞよろしく願いいたします。

私事ではありますが、1月10日に48歳にして初めて「結婚」をさせていただきます。何よりも私のことを真剣に考えてくださる方で、今までの人生お寺とご縁の無かった方なのですが、誓願寺の事をきちんと自分事として考えてくれる素敵な方です。小さな喧嘩も時々しますが、これからの人生、彼女と一緒に嬉しいことも苦しいことも一緒に乗り越えていきたいと考えています。

浄土真宗の宗祖親鸞聖人がご在世の鎌倉時代、一般の僧侶が結婚をする、妻子を持つという事は世間的には認められていませんでした。なぜならそれが仏道の妨げとなってしまうからです。でも、親鸞聖人は恵信尼さまという素敵な女性に巡り合われ、僧侶にして公然と結婚をしました。周りの他宗のお坊さんからは多くの批判の声も上がりました。おもしろいことに、かの有名な夏目漱石も当時結婚をされた親鸞聖人に驚きの言葉を残されています。親鸞聖人が結婚を決意した理由、そこには師である法然聖人のこんな言葉があったから

だと言われています。「現世を過ぐべくようは、念仏の申されんように過ぐべし。」この世界で毎日をごす中でまず念仏を称えやすい環境を整えよというお言葉です。これは私の考えであります。きっと親鸞聖人、心から大切に思う人と僧侶だからという理由で離れていくよりも、共に過ごしていく人生が自分は阿弥陀様を喜ばせて頂ける、お念仏を大切にさせて頂ける環境だと思われて結婚をされたのではないかなと思います。

阿弥陀様は何かをしなければ駄目だとか、何かを我慢しなさいとか仰られる仏様ではありません。お前の毎日がたとえどんな毎日・環境であつたとしても私が必ずお前を仏として見せるから、我が名を称えよとはたき続けてくださる仏様です。今年も私たちが人間である限り、辛いこと悲しいこと厳しいことが無くなることはないでしょう。でも、そんな毎日の中で小さな喜びを感じながら、阿弥陀様とご一緒に毎日、お念仏を喜ばせて頂ける毎日を過ごしていきたいと考えます。

皆様は今年はどういう年にされたいですか？皆様にとつての一年が共に阿弥陀様、お念仏を喜ばせて頂ける一年であることを心より思っております。

合掌

ご法座等 のご案内

どなたでもご自由に参加いただけます。
参加費は無料です。

1月

1・1
(木)

午後一時～
元日会

1・11
(日)

午前十時～
定例法座

【岡本信之師（東京）】

正午～

新年懇親会

1・18
(日)

午前十時～

なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

1・25
(日)

午後一時～

定例法座・祥月命日合同法要

【那須良彦師（鹿児島）】

2月

2・8
(日)

午前十時～

定例法座

【金安一樹師（山口）】

正午～

医療相談

【佐藤公彦医師】

2・15
(日)

午前十時～

なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

2・22
(日)

午後一時～

定例法座・祥月命日合同法要

【南條了瑛師（東京）】



編集後記



年末にベトナムから孫たちが帰省してきました。小学五年生の孫は元氣一杯で、何にでも興味津々。生きる氣 満々な女の子です。おかげで日頃忘れがちな、日々頑張る気持ちを思い出させてくれます。

なぜ「お正月はおめでたい」のでしょうか。新しい年が始まるからというのが納得できる気がしますが、その他にもいろいろある中で、数え年説があります。

現在では、個人のお誕生祝をそれぞれのお誕生日にお祝いすることが一般的ですが、昔は「数え年」で年齢を数えることが普通でした。お正月が来るとみんな一斉に歳をとるという大変おめでたい日であり、おせち料理は家族全員のお誕生をお祝いするためだったのです。

〇〇を大切にするという意味での〇〇ファーストが、他の●●を排除した上での自分中心の世界創りへと時代が過激化しています。個々を大切にしたいとしても区別から差別へはなつてはならないと思います。

他の人の悲しみ・痛み・苦しみを自分の事として憂う（うれえる）阿弥陀如来のお慈悲の心を心から思うのであります。

